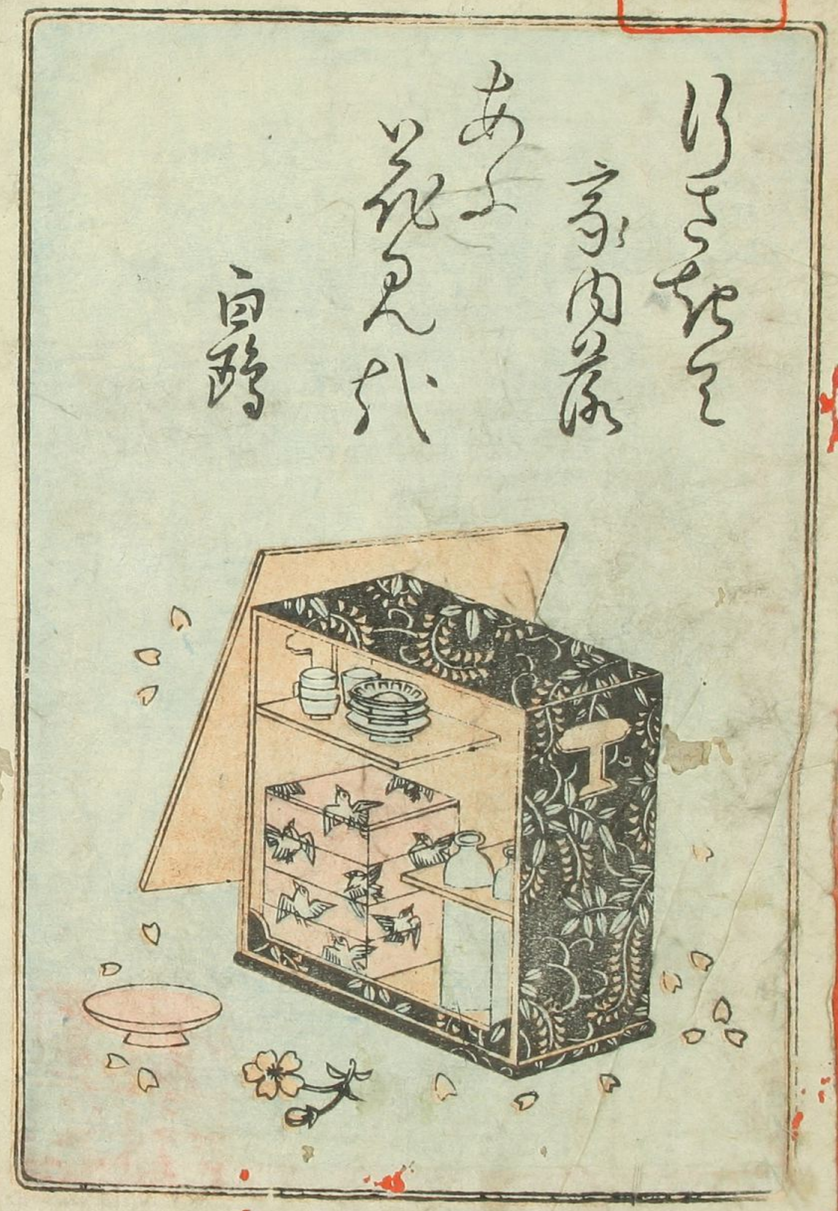
多廬
霽文
車
德亭三孝作
多廬
伊藤忠書習部文章
文化九年
和漢文部
合
39
號
一
冊
逍遥文庫
文庫6
1000

文庫6
1000



序がおいらん式其一先生の
竹紙に紙数五十に名をつく
こゝに三絃のひゝてあまくした
さて昌夏八細見の山形ハ
二つ兵庫星と呼れしより当新
益亭ものらんのひゝとなて
あらゆる仲三町に光輝く
あの色ちやほやと拾曲彩造
風流の筆を脊負て立
ハは居並べど若ふより書
習ハ廓文章花街況言
さくあとやさんにまろんかも
四品貧みくとろ〳〵
あくのん
もろ〳〵のこと
ちこのいふ
徳亭三孝題

強盗
婆羅清乃
婆羅助

藤屋
悪手代
官八

徳亭三孝作 歌川国次画

樂亭馬笑
文好む人ふるひ
徳亭三孝
益亭三友
春亭三暁
徳亭三孝
益亭三友
古今亭三島
徳亭三孝
師匠三馬を
三孝口上

徳亭三孝の戯号を贈る詞

小石川に住て栄をめさうとて業とする人名は一得奇拙の種成といふ

孝を徳は本店のしるし徳は孝の出店なり。故に亭を徳亭となづく大孝は親を
安ること。其次なるは親を辱めざる。其下なるはよく親を養ふ故に三孝といふ
中ごろ唐のまゝめを買ひて三孝さんと号ること。もゝの山にもある小石川
のかたのほとりに一得奇拙の種成なるはかちにあまりうるたゝに奇拙
穀ぐも神田の同孟子千秋庵狂歌の連にてうりてよう。半基にはくあまり来ることを
こゝろぶくをとりあげて笑ふ人もあれど。彼拙たゝが清貫
を原中買其下にたゝ移ばもりて拙青翁が墻をまもり。何ぞ側のこゝろもあらん。
ものとり狂歌も富生も功を積こゝる栄俵三陀羅法師のありげをつゝまれど七足
ちく師の恩を重く捨ひ一得奇拙は持つとも捨ふのうたゝ撰をおろぐ。月亜
のこの月くにふくゝるどれ。蕃人の米はくゝひふ米りを増してくちぶれるき
上ゝはゝるぶりは。ひ拙ゝうまちゝ俵よりもちくゝ社稷をあゝはゝれば五歩
線香の営産哭。一石頭の相場も狂歌にてなぐにはあるどめあり。四国
九州美濃尾張。ゝゝひ地まゝりの狂歌の連中。はゝ長雨ふ乳をもりゝを。
越谷後の里ゝより。狂哥角力れ手拭といはば。西を鎮西鬼為と和一
廣吟和鬼為の五文字を狂歌列の奥にまゝるせばん東は土俵の外が濱奥州千題五百題いふ数多ゝ吟む
遊吟者は徳亭の高名をあるやゝふやゝ狂歌集ぐゝきゝさゝだと
いやまゝに狂歌仕城いのるものゝ。あの色ゝりゝゝゝゝ色のを相こゝ
さんぴゝよ徳亭ん。唯赤本をんどの戯作をゝゝそのゝれゝ中は戯名を
おゝゝあゝゝを幸ひゝ拙と。まけて式亭三馬ゝと何ぞ未乃安
賣にちと。ゝ狂ゝびくゝまゝゝにあん。

例の徳亭ゝ弱なゝど戯作者ぶりにゝゝゝゝ

米相場安くまあ拙どゝゝは一名は

一ゝ九ゝ文化六ゝゝゝゝゝの
九月ゝゝゝゝゝゝゝ高ゝ親ゝ徳亭
徳亭ゝゝゝゝゝ

式亭三馬戯述

鎌倉雪之下乃町人
藤屋伊左衛門
大磯乃遊君
扇屋内
夕霧
太夫
大磯色町の
揚屋
吉田屋喜左衛門
夫婦
三馬

伊左衛門が
云号の
娘
おふぢ
扶ぐ生司
重忠
岩永
左衛門
宗連
明暦の頃
組の
男
羊井
ト養ぶ
岩笠の
三馬接
今りふ
俠客勘三彌平
阿律

三馬 藥店のれひろう

京都 田中宗悦製

仙方延壽丹

諸虚百損をさまるふ良藥せのおせ引さのたんせんハ
二三ゝあるとい二朱ぶんも利ゆゑ
万病ふ功あるゆ世人ゆ
元禄年中ゆ九百共金年間
京大坂ゆ下り葉の元祖也

江戸本町二丁目
式亭三馬店

つゞき

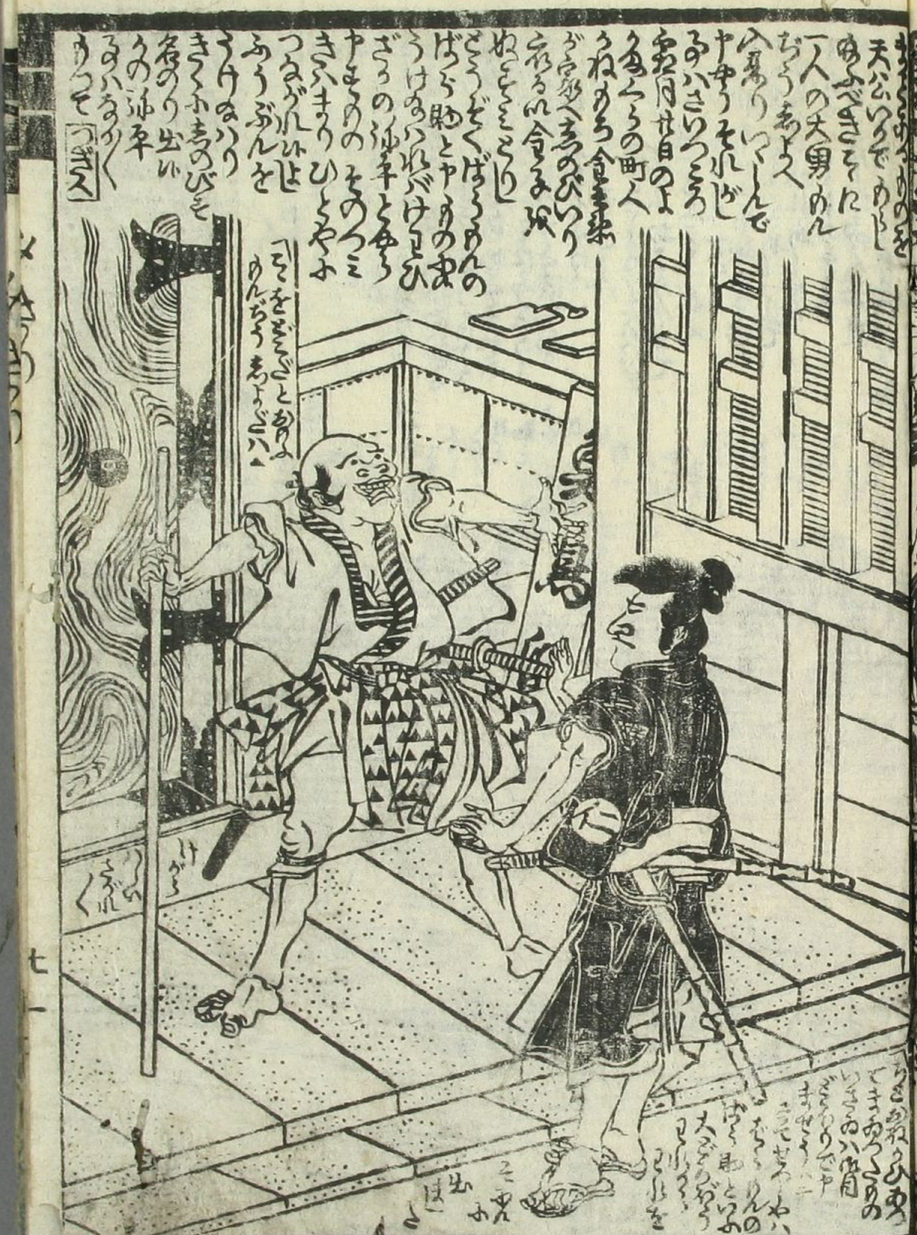
あさぶ弥平

茶屋伊左衛門

「まへのつゞき」たがひに[illegible]

[illegible]

「のちのまきへつゞく」



○伊賀越仇討物語 一九作

○夕ぎり伊左衛 徳亭 三孝作

○おさん茂兵衛物語 東山庵 京山作

○おさん茂兵衛半七 式亭 三馬作

○明烏雪の曙 東山庵 京山作

○猿ばし物語 曲亭 馬琴作

○浪花男厂金蓮 式亭 小三馬作

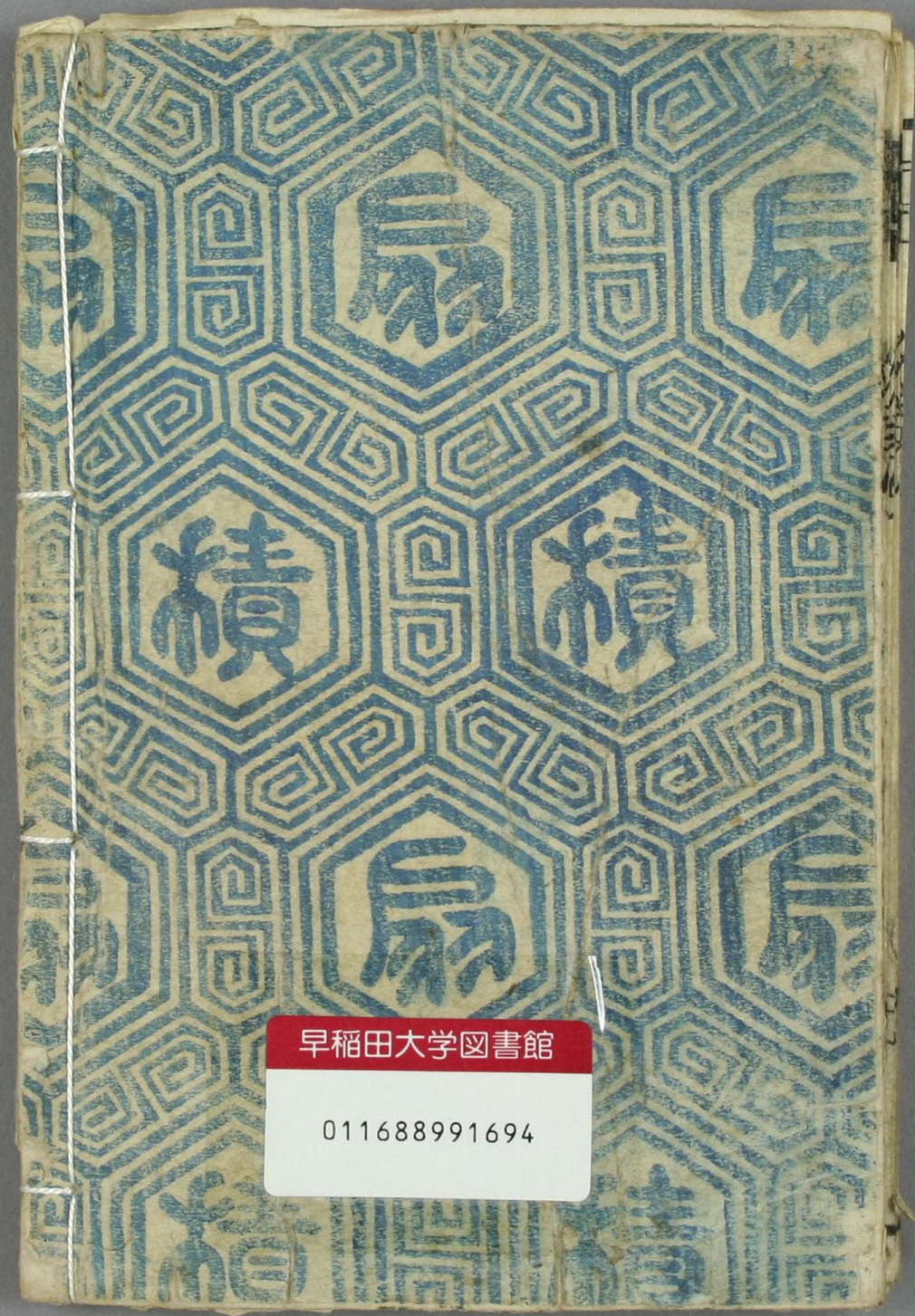
○月みやま 曲亭 馬琴作

○和合神 式亭 三馬作

○弘法大師利益譚 曲亭 馬琴作

○此外近日追々出板仕候御求可被下候

○諸本赤本売 大坂舟町 加島屋清助



早稲田大学図書館
011688991694